



放送作家コンビ“都市ボーイズ” はやせ やすひろさん (写真右側) (大篠出身)

テレビ・ラジオの番組の台本や構成を考える放送作家として活躍中の31歳。歌舞伎町出身で同じく放送作家の岸本誠さんとコンビを組み、“都市ボーイズ”としてテレビ番組やイベントなどにも出演している。怪奇現象などの“オカルト”話を得意とし、テレビ番組「稲川淳二の怪談グランプリ2017」に出演し、優勝した。



▲2019津山さくらまつりで怪談を披露するはやせさん（写真右側）



▲4月に市内で開催したトークライブには、はやせさんの話を聞こうと多くの人を訪れました



放送作家になろうと思ったきっかけは？

中学生の頃から毎晩、深夜ラジオを聴いていました。番組の中で、出演していた放送作家さんが自身の仕事について「面白いことを真面目に考える仕事」と表現していました。その言葉に胸を打たれ、放送作家になろうと思いました。それからは、テレビで放送される漫才やコントのセリフを文字に起こして、「人が面白いと感じる仕組み」について考えるようになりました。

放送作家になるまでの経緯を教えてください

津山工業高校を卒業後、上京し、作家見習いとして芸能事務所に所属しました。毎日、漫才やコントの台本を書き、お笑い芸人さんに見てもらっていました。その後、テレビ局でAD（アシスタントディレクター）として働いたのち、放送作家になりました。

はやせさんから見た津山のイメージは？

わたしは“オカルト”をテーマに活動しています。津山には河童（ごんご）^{かつぼ}伝承や妖怪伝説などの言い伝えが残っているので、とても興味深いまちだと思っています。学生時代は頻りに図書館に通い、地域の歴史の文献などを読みあさっていました。

津山の皆さんにメッセージを

市外に住み始めて、津山はお祭りやお城、博物館など、魅力的なものがたくさんあるまちだと気付きました。津山で生まれ育ったことをとても誇りに思っています。わたしは妖怪が好きなので、いつかごんごおどりの審査員をやりたいと思っています。皆さん、応援よろしくお祈りします。

「注目！今月の津山人」の担当をしました。はやせやすひろさんに取材したいなと思っていたある日、従兄弟と話をしていたら、偶然、従兄弟とはやせさんが友人であることが発覚。共通の話題があったおかげで、とても順調に取材することができました。観覧したトークライブは、かなり怖かったです…。(W)

市公式Instagramラムを開設しました。広報紙の写真は動きや表情などまちな人の息遣いをInstagramではまちな風景や建物などそれ自体の魅力を伝えることを目標に撮影しています。これまで以上にいろいろな角度から津山の魅力を発信していきます。ぜひご覧ください、フォローをお願いします！(C)

皆さんは、栗の花をご存じですか？「世の人の見付ぬ花や軒の栗」。松尾芭蕉の俳句です。世間が注目しない花を育てる家の主人は、きつと奥ゆかしい人物だろう、花も人も目立つのがすべてではないと詠んでいます。今月から(㊂)と交代しました。皆さんへの取材を通じて、津山市の今を伝えていきます。(三)

